

今までの取り組み・これからの課題

協働のまちづくり

平成 28 年度から 5 か年計画で進めている市協働のまちづくり推進計画に基づく、「後期実行計画」について、市協働のまちづくり推進委員会から、取り組み状況について、総括意見の提出がありました。主な内容をお知らせします。
※紙面の都合上、意見は抜粋して掲載しています。

総括

平成 22 年 4 月に制定された、「富里市協働のまちづくり条例」を始まりとした富里市の「協働のまちづくり」への取り組みは、条例の検討から含めて、すでに 10 年になろうとしています。地域社会の主役である市民の自発的な活動を支え繋げる取り組みとして、条例制定後 30 項目の事業を策定しました。

この 10 年は、まさに「人と人を繋ぐ」地道な努力に、費やされたといっても過言ではありません。これから更なる取り組みの発展を期待しています。

環境づくり



担い手づくり

協働のまちづくり講座の開催

この講座は、着実に浸透しつつあると思います。小学生や若い世代に向けた長期的な観点に立って、対象者別に今後も継続してほしいと思います。「夏休み！小学生ボランティア体験」講座は、次世代を担う子どもたちの気持ちに残ると思うので地道に続けてほしいと思います。

また、「メカラウロコセミナー」は、今後は基礎的なものから、専門性のある講座内容に広げ、新しい視点での講座の開催を期待します。

市民活動感謝状贈呈制度の運用

「市民活動感謝状制度」は、市民が市民活動に関心を持ち、関わるきっかけとなるように制度を運用し市民活動を活性化するものです。

今後、対象者については、もっと多様性があっていいのではないかと思います。

とみさと協働塾の開催について

とみさと協働塾は、平成 29 年度から引き続き 2 か年にわたり、「居場所づくり」として、地域に必要な知識やスキルを習得する連続講座として実施し、一定数以上の受講者を「まちづくりのサポーター」として市に登録、受講者を次の段階に促すことができたことは、評価できるものです。

しかし、「とみさと協働塾」で輩出したサポーター（延べ 27 名）の皆さんの、その後の活動についてのフォローアップや、動向、検証など、また、サポーターとしての活躍が見えるように工夫する必要があります。とみさと協働塾の活動、リーダーづくりについて、今後も継続してほしいと思います。定着を進めるため、毎年開催月と開催場所をあらかじめ決めてみるのもいいかと思われます。

情報の提供・共有

市民活動の実態及び意向調査

市民活動実態調査の情報などを、市民にどのように提供するかが問題です。自治会はもちろんのこと、法人企業に向けての PR が重要であると考えます。

また、新たに「担い手情報ホームページ」を作成し、ホームページ上でリンクしたページを紹介することで、一貫性と見やすさを追求できるのではないかと思います。

とみさと市民活動フェスタの開催

市民活動フェスタは、市民活動団体の活動を周知し、市民活動に関心を持っていただくには、パンフレットよりも何倍かの効果があります。フェスタはまちづくりのショウウインドウとして最適です。今後も継続して開催されますようお願いいたします。



☎ 市民活動推進課

☎ (93) 1117

市の体制について

市職員研修の実施について

職員研修の成果が、様々な場面で少しずつ伝わってきます。職員の意識を高めるため研修の意義は、大きいと思います。市民と職員が共に学び、考え、意見交換の場をつくり、双方の目線で問題を探っていけるといいと思います。



市民活動サポートセンター機能の充実

協働のまちづくりの理念を具現化するサポートセンターは、人と人とを繋ぐ役割の下、順調に成果をあげています。また、サポートセンターからの SNS での情報発信は、今の時代に調和していて良いと思います。これからも継続していただきたいと思います。サポートセンターの 7 つの機能は充実してきているように思われますので、今後は、資源の掘り起こし、情報発信について何ができるかを考え、市民活動団体の手助けとなるように、アイディアを提供し続けてほしいと期待しています。

まちづくりコーディネーターの育成及び充実

コーディネーターは、外部の専門家の指導により、その能力は確実に向上しており、チャレンジ精神に富み、積極的に取り組んでいることもあり、大きく評価できます。

引き続き NPO 法人の委託を継続し、コーディネーターの定着、業務のスキル向上を図っていただきたいと思います。サポートセンター機能充実のキーポイントは、情報の収集力です。今後は収集した資料をもとに課題を整理して提案する「発信力」を期待します。



市政への参画

パブリックコメント制度の周知

パブリックコメントの実施については、市の広報に掲載されていますが、周知のスタイルが同じ募集方法で、コメントをする人は、いつも同じなのではないでしょうか。意識が低いと感じられ、問題意識の欠如かもしれません。手法を変え、関係する市民団体や、ボランティア団体から意見を求める機会を増やす方がいいと思います。今後は、特に結果の周知としていただきたい。ある程度明確な回答がなければ、市民に関心は得られにくいと思います。

市民提案機会の拡充

「とみさとふれあいミーティング」は、参加者が少ないと思います。中学校区に分けて区長会と共催し、司会や進行を地域の人にお願ひし、実施してみてもどうでしょう。また、結果について、意見の概要と、それに対する市の回答等を回覧板等で報告する方法も検討してみてもどうでしょうか。